カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

祈祷の使徒　祈りの意向

・教皇　人生の最終段階を病の中で過ごしている方とその家族が、周囲の支えの中で、必要な医療と人間的なケアを受けることができるように

・日本　日本で働く外国人労働者が、生活環境に恵まれ、安心して仕事に励むことができるように

教区本部事務局、法人会計事務室など
2025年1月に大司教館へ移転予定

大司教館
カトリックセンター　館長　岩本 繁幸

このほどカトリックセンター（以下「センター」）がこれまで果たしてきた大きな役割を見直す時期となり、今後の在り方について以下の通り検討してきましたので、報告いたします。

1．センターが担ってきた機能

(1) 話し合いの場

センターには大ホールや会議室、講堂が設けられており、設立当初から信徒使徒職評議会を中心に、壮年会、婦人会、青年連絡協議会、高校生会などの各団体により、活発に利用されてきました。現在も諸活動委員会や諸活動団体などに利用されています。

(2) 活動の場

設立当初、センターには教区本部、信徒使徒職室、司牧評議会室、会計室、カトリック教報社、神学講座室、司祭評議会室、図書室が設置され、「神と社会への奉仕の場」として各種団体が奉仕活動を行ってきました。現在では教区評議会、教区本部事務局、法人会計事務室と形を変えながらも、その活動が続けられています。

(3) 研修の場

カトリック講座や聖書講座、典礼講座、結婚講座などが開催され、多くの修道者や信徒たちが講義や研修を受け、また多くのカテキスタが生まれました。

(4) 宿泊の場

4階～6階には、各地から長崎で行われる行事に参加する人たちの宿泊室が設けられ、教区内外の司祭・修道者・信徒たちが集まることのできる環境づくりが整えられました。

この宿泊施設は信徒のみならず一般の方にも広く利用されてきました。

▲現在、教区本部事務局や法人会計事務室などが所在を置くカトリックセンター㊨、上野町）と、移転先となる予定の長崎大司教館（㊧、橋口町）

2．移転の理由

上記の役割を担ってきたセンターですが、現状ではさまざまな問題・課題を抱えるようになり、以下の理由から移転を検討することとなりました。

(1) 建物の老朽化

センターは1971年の竣工であり、築50年を超えました。現行の耐震基準には適合していない建築物となっており、耐震安全性が担保されているわけではありません。建物全体の老朽化も進み、建物本体の壁・床・天井をはじめ館内の施設設備、特に配水管の老朽化が懸念されています。

(2) 宿泊部門の廃業

センターの4階～6階は宿泊施設として活用されてきましたが、コロナ禍の影響で採算がとれない状況となり、トイレ・風呂など共用部分が多い当施設ではコロナ対策を実施できず、2020年7月をもって宿泊部門は廃業いたしました。

その結果、6階建て建物のうち半分以上のスペースがほぼ活用されなくなり、利用の実態に対して維持管理費が割高な負担となっています。

3．移転の検討

このような経緯から、センター建物は現状のまま使用継続をするのが難しいと判断し、教区本部事務局などの移転の検討を始めることとなりました。

(1) 教区施設統廃合検討チームの発足

2021年3月、センターと大司教館、長崎カトリック神学院について、それぞれの役割に応じて機能を統廃合することが可能かどうか、これらの在り方を検討するための「教区施設統廃合検討チーム」を立ち上げました。中村倫明大司教様を座長として、各施設長や各地区代表司祭、教区経済問題評議員である信徒も加えて、検討を行うこととなりました。

(2) アンケートの実施

事務局移転を検討するにあたり、まずは司祭・修道者・信徒の皆さんの意見を聴いた上で方向性を決定することになりました。2021年12月1日～2022年3月31日に広く意見を公募し、112人の方々から回答をいただきました。ご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。

その結果、「教区本部事務局などを大司教館に移転すること」、「会議機能は既存の大司教館・小神学校・浦上教会施設の利用を検討すること」などの方向性を決定しました。

4．教区本部事務局などの大司教館への移転

教区施設統廃合検討チームとしては、皆様からのアンケートの結果を踏まえ、過去14回の会議を重ね、以下の通り決定しました。

(1) 大司教館への移転

大司教館1階、現在ガレージの場所を改装して「法人会計事務室」に、大司教館2階の図書室閲覧室を「教区本部事務局」に、2階図書室前のロビーを「倉庫」にすることで決定しました。詳細なレイアウトは、教区本部事務局などで働く職員の意見を聴取しながら、働きやすい環境を目指して検討を重ねているところです。

(2) 移転スケジュール

教区本部事務局などの移転は2025年1月に実施することを決定しました。それまでに、紙媒体で保存してきた資料のデジタルアーカイブ化、利用環境の検討などの作業を進める必要があります。なお、大司教館の改装工事は2024年8月～11月頃を予定しております。

5．センター土地建物の今後について

教区本部事務局などの移転後、センター土地建物をどうするかについては、今後「実行委員会」および実働部隊となる「プロジェクトチーム」を発足し、そこで検討することとしておりますので、現時点ではまだ何も決まっておりません。

今すぐにセンターを建て替える余裕はありません。10年～20年後を見据えて、福音宣教に資する目的のための活用法を検討していくことになります。

長崎教区の未来のため、どのような活用が一番福音宣教に資することにつながるのか、今後とも司祭・修道者・信徒全員が一体となって検討していくことができれば幸いです。

移転やセンター土地建物に関する情報は、教区ホームページを通して随時お知らせする予定です。

名古屋教区
能登半島地震の被害について報告と対応
カリタスジャパンも募金受付開始

1月1日（月）に発生し、最大震度7を観測した能登半島地震。各地で甚大な被害をもたらし、死傷者・行方不明者、被災地・被災者の状況はその後も報道が続いている通りだ。

名古屋教区（松浦悟郎司教）は1月4日、教区の皆様にあてて「能登半島地震被害についての報告と対応(1)」を公表し、現地の教会の状況とともに募金情報を含む今後の対応を伝えた。「地震発生直後からカリタスジャパン担当司教である成井大介司教、司教協議会会長の菊地功大司教から支援協力の連絡が入りました」（同文書）。1月5日、カリタスジャパンも募金受付を開始した（各口座は下段をご確認ください）。

教皇フランシスコはこの地震の犠牲者のために祈られたという。「教皇フランシスコは、地震の報を受け、この地震による犠牲者と、もたらされた被害のために、深い悲しみを表明された。（中略）被災者の支援にあたる行政当局と救急隊員に励ましを述べながら、教皇は、すべての人に神の慰めと力を祈られた」（1月2日付バチカン・ニュース）。

その後、名古屋教区は1月9日「報告と対応(2)」で、多くの祈りと支えに深い感謝を表すとともに、近日中にサポートセンターを立ち上げ、支援の窓口として活動していくことを伝えた。そして15日「報告と対応(3)」で、金沢教会内に立ち上げる「のとサポートセンター」（1月20日開設）に関する情報を伝えた。センター長は片岡義博神父（名古屋教区）、スタッフはERST（中央協議会・緊急対応支援チーム）とボランティア。センター準備スタッフからは、ボランティア募集などについて「今後のお知らせを待っていただきたい」旨のお願いが発信されている。

能登半島地震　募金受付

■教会内支援（教会の修復や被災された信徒の方への見舞金など）のため
郵便振替　00810－5－50605
加入者名　カトリック名古屋教区
＊通信欄に「のと地震」と明記してください。「NOTO」あるいは「のと」だけでも可。
※お寄せいただいた救援金は、公益性の高い他の活動（被災地域全般）についても使わせていただくことがあります。

■被災地での支援活動ならびに広く被災された方々への支援関連活動のため
郵便振替　00170－5－95979
加入者名　宗教法人カトリック中央協議会　カリタスジャパン
＊通信に「能登地震」と明記してください。

ほしかげ

「見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください」（ルカ15・6）▲昨年9月18日午後。国の地籍調査で大司教区名義の土地の地番確定のため業者と山に入る。土地の境界を指差し確認する作業▲あまりの軽装のため、業者側から長靴と、シリコンと金物製のケース入りの蚊取り線香を支給されるほど。地面は前日までの雨でぬかるんでいる▲うっそうとした山の中は全部似た景色で道順も分かりづらい。20分ほど歩き、該当地で作業を終える。しかし…▲「作業があるため、一人で先に下山して書類にサインをしてほしい」とのこと。来た道を帰るだけと言うが「分かるわけがない」とつぶやきつつ、迷う。枝の印も方向は示さない。結局下山できず野宿となる▲ぬかるみに長靴は捨て置き、裸足で移動するも、夕方となりこれ以上は危険。昔の田畑の跡地に生える葦の枝を倒して寝床を構え、気休めの害虫・害獣よけに線香の灰を肌に塗り、周囲に撒く。名前を呼ぶ警察の捜索にも返事はできず、そして、夜▲まどろむだけの夜を無事に過ごし、翌朝別の入山口に自力で下山し、多くの有志信徒、消防分団、地元住民の捜索隊と合流し発見となる。「良かった」の声が恥ずかしいやら、申し訳ないやら▲まして見いだされて神に立ち返る人間への、罪のゆるしと傷の癒やしは、「悲しみの季節」の大きな慰めである。（熊）

会計上の重大な不手際に関する会計処理報告

教区会計　岩本 繁幸

２０１３年、前教区会計担当は、知人のＫ氏の依頼を受け、大司教や顧問会の決裁を仰がず、１億４６５１万２２７３円（利息を含む）を貸し付け、またＫ氏の会社に１億６５万６５００円を出資しました。合計金額は２億４７１６万８７７３円となります。この間、法的措置（貸金返還請求訴訟）などにより、回収に向けた取り組みを進めてまいりました。

貸付金に関しては、２０２３年９月に裁判で勝訴判決を得ましたので、資金回収を試みました。しかし、アラブ首長国連邦（ＵＡＥ）在住の相手方の所在が裁判所でもつかめず、勝訴判決は得たものの、これ以上は資金回収の見込みが立ちません。

出資金に関しては、Ｋ氏がＵＡＥで設立した会社について調査会社による調査を行いましたが、出資先会社への連絡は実現不能であるとの調査報告を受けました。また、教区の顧問弁護士からも「出資金の回収は非常に困難」との見解をいただいております。

これらを踏まえ、教区としては貸付金および出資金については回収不能と判断することといたしました。今後、２０２４年度当初予算案に特別損失として計上し、教区顧問会による審議・議決をいただいた後、会計上の減損処理を行うことを予定しています。

なお、毎年度の決算報告（『カトリック教報』８月号に掲載）で報告しておりますように、これまで当事者・前教区長・教区顧問団による補てん金、および教区司祭らによる自主的な寄付金をいただいており、貸倒引当金として計上してきました。２０２３年12月末現在の金額は後述（囲み）の通りです。これは、減損処理の際に、損失の穴埋めに充てることになります。関係者からの補てんと寄付につきましては、今後とも引き続き受け入れていくこととといたします。善意の皆様のご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

また、２０２４年度の教区事業への影響については、所属の不動産取得資金特別会計内での処理に収めることとなりますので、一般会計およびその他の特別会計の事業・予算への影響は生じない見込みです。

この問題については、教区会計のシステムに大きな欠陥があったことも大きな原因だと考えております。この点を大いに反省して第三者の公認会計士に問題点を洗い出していただき、その調査報告書を基に、①文書主義の徹底、②相互確認主義の徹底、③決裁権限基準の制定、④会計監査に信徒を加えること、⑤財産目録の作成、⑥各特別会計の目的に応じた「規程」の制定や改定などの取り組みを進めてきました。再発防止策については、今後とも小教区の皆様の協力をいただきながら取り組みを進めてまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

多くの司祭・修道者・信徒の皆様、および関係者の皆様を動揺させ、心を傷つけてしまい、大変ご心配とご迷惑をおかけしました。改めて心からお詫び申し上げます。同時に、心からの励ましと支えをくださる皆様に感謝いたします。これまでのご協力、本当にありがとうございます。

前教区会計担当による補てん金　７２９万３２９４円
前教区長・顧問団による補てん金　２３４９万８１６３円
教区司祭らによる自主的な寄付金　１４２９万円
合計　４５０８万１４５７円
（２０２３年12月31日現在）

2023年度 第２回 司祭評議会

昨年12月12日（火）長崎大司教館で、２０２３年度第２回司祭評議会が行われた。

主な報告事項として、司祭評議会役員に山村憲一師と大水文隆師が任命を受けた。また、主な審議事項は次の通り。

①２０２４年度教区年間行事予定について―補足として司祭評議会と顧問会の日程を９月９日（月）、12月９日（月）、２０２５年３月17日（月）に定めた。

11月の教区民のための追悼ミサは、地区ごとに実施する。

②新しい体制でのコレジオの移転先は、お告げのマリア修道会中町修道院跡とする。

③教区シノドス担当司祭の岡 秋美師と谷脇誠一郎師（同副担当）、諸委員会との関係性を明確にし、相互に率先してともに集う教会づくりを目指すこと、また２０２４年度に向けて「活動組織の運用指針」改定を進める。カテキスタ養成については信仰教育委員会、ミゼリコルディア構想については福祉委員会、小共同体推進については生涯養成委員会が中心となって実施する方向で調整を続ける。

④２０２４年度の教区司祭黙想会を６月11日（火）から14日（金）までとし、具体的には本部事務局で検討する。

⑤小教区互助基金特別会計規程の改定が承認された。その第８条の返還の規定では、「小教区は、主任司祭が銀行営業日の10日前までに、別に定める書式に従って教区会計に申請すれば、基金に預託した資金の返還をいつでも受けることができる」とあるが、申請するのは「主任司祭」ではなく「小教区」であるとした。

2023年度 第３回 教区顧問会

昨年12月12日（火）長崎大司教館で、司祭評議会に続き、２０２３年度第３回教区顧問会が行われた。主な報告、審議事項は次の通り。

①旧伝道師学校活用の再考要請に関する件―昨年９月に次いで、デザイン・フォー・ヘリテージ社から大浦旧伝道師学校保存修理・活用施設整備事業の再提案が出された。審議の結果、旧伝道師学校の別の団体への貸し出しと活用を含め、今年３月の顧問会で再度審議を行う。

②教区財政問題解決のための検討―将来の財政予測の試算が教区会計の岩本繁幸師から出された。教区財政の現状と、将来必要な費用の試算とを比較し、一般会計および各特別会計における必要財源を確保するため、将来の教区財政問題解決に向けての方向性を検討および確認した。一般会計収入の中で、教区費の比率は20％弱。一般会計支出の中で、給与（人件費）の比率は52・５％。教区司祭数については、30年後は引退司祭数が現役司祭数を上回る。教区財政の現状を踏まえ、問題解決に向けて努めていくことが確認された。

③旧ロザリオ幼稚園および旧聖ドミニコ宣教修道女会長崎修道院（長崎市曙町）の解体。建物が老朽化し建物崩壊の危険性も高いため、その解体を優先し見積もりを取り、稟議で決定する。

④大浦天主堂キリシタン博物館の委託管理者選定。２０２４年度４月からの４年を期間として、大浦天主堂キリシタン博物館の委託管理者を募集していた。昨年12月面接審査が実施され、株式会社ＫＴＮソサエティが委託管理業務の適正者として推薦され、承認した。

⑤子どもと女性の人権相談室規程。今後相談室の場所と人選と具体的手続き方法を詳細にした上で、同案を稟議で決議する。

⑥岡山聖虚作バチカン所蔵の『日本二十六聖人画』の修復のため一般社団法人の設立案が出された。同案は同画の国内における修理意義などに疑問が出て否決された。

お知らせ

〈一菜募金の支援状況〉
１月１日に発生した能登半島地震に関し、長崎教区は名古屋教区が公表した１月４日付「地震被害についての報告と対応」の情報を受け、１月９日一菜募金から２００万円を名古屋教区あてに送金した（１面に関連記事）。

ぶどう園

▼日本二十六聖人殉教記念ミサ　２月４日(日)14時、西坂公園（雨天時は中町教会）。教区主催、長崎南地区評議会担当。

▼西坂・聖フィリッポ教会での日本二十六聖人殉教記念日当日のミサ　２月５日(月)９時、11時、13時、15時、17時、19時。※ミサ開始30分前からゆるしの秘跡を受けることができる。長崎南地区司祭団主催。

▼朝祷会　２月20日(火)７時30分、中町教会で祈り。その後、朝食（各自持参）。※毎月第３火曜日実施。

問合先：教区エキュメニズム・諸宗教委員会　竹谷神父（三ツ山教会）
TEL 095-847-7411

カリス通信　2月号
学校法人向け役員賠償責任保険のご紹介

学校法人の役員の皆様が安心して学校経営に従事いただけるよう、役員賠償責任保険（D&O保険）をご案内しています。

＜学校法人における役員訴訟の事例＞
1．第三者が役員に対して損害賠償請求を提起した事例
大学の教員が長時間労働により過労死。長時間労働について担当役員が認識できていたにも関わらず、それを放置した。遺族が当該役員の責任を問う損害賠償請求を提起した。
2．学校法人が理事に対して損害賠償請求を提起した事例
学校法人において、理事が理事会の承認を得ずに、デリバティブ取引を行い、学校法人に巨額の損失を生じさせた。当該学校法人が取引に関与した理事に対し、損害賠償請求を提起した。

＜役員賠償責任保険の主な特長＞
1. 争訟費用を含む費用保険金を幅広く補償します
法律上の損害賠償金・争訟費用に加え法人内調査費用や第三者委員会設置費用、信頼回復広告費用等、幅広く補償します。
2. 法人から役員への賠償請求（法人訴訟）も対象となります
第三者訴訟に加え、法人訴訟（法人から役員への損害賠償請求）も補償します。
3. 役員退任後の補償も安心です
退任された役員については 10年間の補償延長があります。

※「役員賠償責任保険」についてご紹介しました。ご契約にあたっては、パンフレットおよび「重要事項説明書」をお読みください。

私たちが、お守りします。　三條貴英　毛利玲子　山本泰彦　服部秀昭　川口 薫神父(顧問)

カトリック共済システム
有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
23R-030135（2024年1月作成）
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

内科・循環器科
医療法人 平田クリニック
院長　ヨゼフ　平田哲也
通所リハビリテーション
上野町グループホーム・サービス付き高齢者住宅
長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175

アンドレア・レンボ司教
東京教区に補佐司教誕生

昨年12月16日（土）12時から東京教区カテドラル聖マリア大聖堂（関口教会）で、9月16日に教皇フランシスコにより東京大司教区の補佐司教に任命されたアンドレア・レンボ司教の司教叙階式が行われた。

東京教区の菊地功大司教が主司式を、多くの司教・司祭団が共同司式を務め、聖堂には修道者、信徒らも集い、式の様子はライブ配信された。叙階の儀の初めには、駐日教皇庁のファブリス・リヴェ臨時代理大使が使徒座の任命書を掲げ、その後、原文（ラテン語）を読み上げ、東京教区本部事務局長の浦野雄二師が日本語訳を朗読した。

©カトリック東京大司教区広報

6年前の同じ日に東京教区に着座したという菊地大司教は説教の冒頭、「大司教としての務めの中で実感しているのは、信徒・修道者の皆さん、そして司祭団と共に、先頭に立って歩みを共にする立場を一人で背負うには、私の力では十分ではないということ」だったと触れ、「多くの皆様に補佐司教誕生のためにお祈りをお願いしてきました。ふさわしい人物が任命されることになったのも皆様のお祈りのおかげ」と謝意を述べ、説教の終わりに、新司教の上に神の祝福と聖霊による導きが常にあるよう祈りを呼びかけた。

閉祭前に、日本カトリック司教協議会代表として、また東京教区の教区長として菊地大司教から、駐日教皇庁のファブリス・リヴェ臨時代理大使から、東京教区司祭団代表の辻 茂師から、それぞれお祝いの言葉が寄せられた。

最後に、レンボ司教は、体調と高齢のためこの日の式に参加できなかったイタリアの母に向けユーモアを交えて一言あいさつ。そして、今までに出会った多くの人々に対する深い感謝の思いを表した。「これまでは司祭として教会共同体を支える一人でありましたが、これからは使徒たちの伝統を継承する牧者として、司教の一人として、教会共同体を支えていく所存です」と語り、「引き続き皆さんのお祈りとお力添えをお願い申し上げます」と締めくくった。

モットーは「わたしがあなたがたを愛したように」（ヨハネ13・34）。

人事異動・任命

▼教区〔2023年12月21日付〕
鳥瀬　文武師　上五島地区長代理〔青砂ヶ浦主任兼務〕
山口竜太郎師　青方・丸尾主任代行〔長崎カトリック神学院院長兼務〕
＊中濱繁喜師（上五島地区長、青方・丸尾主任）は病気療養のため大司教館へ。

▼イエズス会〔2024年1月1日付〕
デ・ルカ・レンゾ師　日本二十六聖人記念館館長〔二十六聖人修道院所属〕
＊キム・ヒョンウク師は2023年12月31日付で日本二十六聖人記念館館長を退任。退任後は修練のためオーストラリアへ。

洗者ヨハネ長谷功神父帰天

昨年12月26日午前8時5分、心不全のため入所先の養護老人ホーム聖マルコ園で逝去。83歳。

1940年8月10日佐世保市生まれ。浅子教会出身。68年3月19日大浦天主堂で司祭叙階。同年浦上、72年出津の両教会で助任を務めた。75年からは西木場、83年大野、92年桐、2001年平戸口、07年曽根、11年時津の各教会で主任。14年6月引退。

通夜は12月27日浦上教会信徒会館、葬儀ミサ・告別式は28日同聖堂で中村倫明大司教の司式により行われた。

通夜では、長谷師が桐教会に赴任した当時、初聖体や侍者奉仕でもお世話になったという同教会出身の宮原大地師が説教をした。宮原師は、「時には厳しく、そしてほとんどの時は優しくご指導をいただいた」と感謝を述べ、叙階前に長谷師を訪ねた時のことを「20年も前のことで私のことは覚えてないかもしれないと思っていたら、応援をしてくださっていて、励まされ、とてもうれしかった」と振り返り、安息を願った。

葬儀では、共に司祭叙階の恵みを受けた同級生の濱崎靖彦師が説教師を務めた。「司牧熱心で活動的、何事にも積極的に協力し、手際よく片付けることができる神父様と感じていた」と生前の長谷師をしのび、教区エキュメニズム・諸宗教委員会の一員として平和活動に携わっていたことや、同級生会の折には持参したギターを演奏してくれて皆で歌い、場を盛り上げてくれたエピソードなどにも触れた。また、昨年5月に見舞った際には、長谷師が周りの人々の支えに深く感謝していたことについて語り、関わったすべての人々に向けてお礼を伝えるとともに、故人の永遠の安らぎを願い言葉を結んだ。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭洗者ヨハネ長谷功神父の逝去につきましては、早速ご丁重なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のためにお祈りいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

一々拝眉のうえ御礼申し上げるべきところ、紙上をもって代えさせていただきます。

二〇二三年十二月

カトリック長崎大司教区
大司教　中村 倫明

日本二十六聖人記念館館長にレンゾ師

日本キリシタン史に関する資料や美術品を展示している日本二十六聖人記念館（長崎市西坂町）の館長に、デ・ルカ・レンゾ師が今年1月1日付で就任した。

レンゾ師はアルゼンチン出身で、1981年イエズス会入会。85年来日、96年司祭叙階。97年同館の副館長となり、その後、初代館長・結城了悟師に続き2004年から12年間以上にわたって2代目館長を務めた。17年イエズス会日本管区長就任のため退任。昨年、管区長の任期満了に伴い再び長崎に戻り、記念館館長に再任されることとなった。キリシタン史の専門家として知られ、近年は五島市奈留島のカクレキリシタン儀式の再現プロジェクトにも参画している。19年11月の教皇フランシスコ来日の際には、通訳などを担当し、帯同した。

2023年度 第2回 臨時司教総会

昨年12月14日（木）東京・日本カトリック会館で、2023年度第2回臨時司教総会が開かれ、15人の司教と1人の補佐司教、修道会・宣教会の代表が参加した。

主な報告は次の通り。

▼シノドス（世界代表司教会議）第16回通常総会第1会期が2023年9月29日から10月29日までバチカンで開かれ、日本から参加した3人の1人、菊地 功大司教（東京教区）が参加報告を行った。シノドスは2024年、第1会期と同じ参加者によって第2会期が行われるが、それに向けた準備が行われること、第1会期最終文書の邦訳を急いでいることも報告された。

▼24年四旬節キャンペーン大綱（12月の常任司教委員会で承認）が報告された。募金目標額は1億円で、国内外を問わず、必要とされている援助活動に配分する。

▼24年の司教協議会年間活動方針（9月と10月の常任司教委員会で検討・確定）を、以下の通り報告した。

①福音宣教を推進する②新しいミサ典礼書の普及③災害や事故の犠牲者・被災者をはじめ、助けを必要とする人を支援する④平和といのちを守る⑤司牧・生涯養成の継続⑥中央協議会の運営および業務の遂行。

続いて、2点の審議が行われた。

▼22年2月15日、教皇フランシスコは自発教令の形式で発表した使徒的書簡で、ラテン典礼教会と東方典礼教会の教会法にそれぞれ改訂を加えることが発表された。改訂は教区司教の権限を強化している。その使徒的書簡と、改訂された『カトリック新教会法典』の該当条文の邦訳を検討し、正式な日本語訳として公表することを承認した。

▼前述の報告にあった活動方針に基づいて、24年度カトリック中央協議会予算案を審議し、承認した。

2023年度 教区青年黙想会のご案内

今年も教区青年のための黙想会を予定しております。今回は昨年催されたWYD（ワールドユースデー）リスボン大会に参加した青年とともに、大会の報告と感謝、活動の喜びを共有できたらと思っております。

多くの青年の参加をお待ちしております！

教区青少年委員会

日時　3月10日（日）10時～15時
場所　長崎大司教館
対象　18歳～40歳の青年（高校生不可）
参加費　1000円
申込・問合せ先　各地区の担当司祭または大崎教会（電話←）TEL 0956-47-6188

叙階・選任・認定式のお知らせ

3月20日（水）10時30分 浦上教会
助祭叙階式
受階者　ボナベントゥラ　ホン・チャンキ（浦上）

3月10日（日）14時 相浦教会
選任式
祭壇奉仕者受任者　トマ　廣田 学（鹿子前）

3月17日（日）19時 大浦天主堂〔信徒発見ミサ〕
助祭・司祭候補者認定式
ベルナルド　森 翔真（太田尾）

158回目の創立記念日
長崎カトリック神学院

昨年12月8日（金）、長崎カトリック神学院の創立記念ミサが中村倫明大司教様の司式のもと神学院聖堂で執り行われた。

今回で158回目の創立記念日だった。

できる限り火曜日の夕食を神学生と共になさっている大司教様は、神学生のことをよくご存じ。普段の神学生の姿を見て気になっていることに触れ、意識して変わっていくようにと温かく語り掛けてくださった。

また、この日は香焼教会から主任神父様と信徒代表の方が来院され、「召命のために祈るロザリオ1万連」の霊的花束の贈呈もミサの最後に行われた（右の写真）。予定では今年度末での1万連到達を目標としていたが、夏の終わり頃には到達が見えたとのこと。司祭召命に対する信者さんたちのあつい思いを、神学生、スタッフ共に感じる贈り物となった。

（長崎カトリック神学院）

祈る香焼教会共同体
召命のためのロザリオ運動成果奉献

香焼教会では2023年度、召命のために祈る共同体をつくろうという司牧指針によって、23年4月から「召命のためのロザリオ1万連奉献運動」を始めた。

今年3月まで実施する予定だったが、信徒に好評で、昨年10月には目標を早期に達成することができた。同教会主任のダニエル金（キム）桐旭（トンウク）師は11月26日の長崎南地区合同堅信式の後、中村倫明大司教にささげ、最終的には12月8日（金）、長崎カトリック神学院の創立記念ミサの中で、召命を願う心を込めて香焼教会共同体がロザリオの祈りで完成した「イエスの御顔」を同神学院に奉献した。

〝福音を託された地として〟

平戸ザビエル祭

平戸地区担当の「ザビエル祭」が、中村倫明大司教を迎え12月3日（日）14時から平戸ザビエル記念教会で行われた。好天に恵まれ、地区の司祭団、信徒、修道者、約120人が集った。

説教の中で、大司教は「今日は、日本宣教の保護者、聖フランシスコ・ザビエル司祭の祝日です。日曜日と重なったため祝日の表記はありませんが、特に平戸地区の皆様にとってはお祝いと喜びの日です」と語り、1550年に平戸を訪れた〝ザビエル様〟に思いをはせ、〝ザビエル様〟から愛され、福音を託された地として、喜びと希望をもって信仰者の道をこれからも歩んでほしいとの励ましの言葉が参列者に向けて贈られた。

また、感謝式では、大司教はお礼の言葉とともに、神学院の体験入学者が14人いたことに触れ、召命のため今後も力を貸してほしいと願った。

感染症予防に配慮しながらであったが、ミサ曲をはじめ各聖歌を歌い、賛美と感謝のひとときを持つことができた。「久しぶりに皆で聖歌を歌うことができ、感慨深かった」という信徒もいた。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

長崎北地区で研修会

テーマは「教区シノドス」

昨年12月10日（日）14時から滑石教会信徒会館で長崎北地区評議会主催の研修会が開催され、90人余が教区シノドスの推進について聴講した。

講師は一昨年12月に教区シノドス担当に任命された岡 秋美師（飽の浦教会主任）と谷脇誠一郎師（馬込教会主任）が務め、2015年の教区シノドス提言公布以降の経緯と担当就任後の具体的な提案・実践を交えて講話を進めた。

主な内容は次の通り。先般、9年前の提言の基本方針と優先課題を下敷きに「ともに集い喜びある教会に」と「私たちの教会、家庭から司祭や修道者を」の2つの優先課題を提案し、各決定機関で承認された。これまでの「3つのコース料理」を「シノドスバイキング」にメニューを変えて提供し、そのさまざまな提案を実現する準備として、教区の各共同体に、モットーとする「みことば」を選定してもらい、シンプルに出来ることから取り組んでいく。

研修会の最後に長崎北地区長の川原拓也師（滑石教会主任）が「教区シノドスについての理解がより深まり、各小共同体での実践に役立つことを期待する」と締めくくった。

（長崎北地区評議会）

リジューの聖テレーズ 生誕150年―2023年―に

教えの解説本を翻訳・発行

「幼きイエスの聖テレジア」や「小さい花のテレジア」と呼ばれ親しまれている聖人、リジューの聖テレーズ（幼いイエスの聖テレジアおとめ教会博士）の教えに関する本が、生誕150年にあたる昨年2023年、記念日の10月1日に発行された。タイトルは『信頼と愛の道 リジューのテレーズと共に』（単行本・税込1320円、送料別。電子書籍EPUB・税込1100円）。著者はフランスのカトリック司祭ジャック・フィリップ神父で、訳・発行者は長崎外国語大学名誉教授の戸口民也さん（長与教会所属）だ。

4～5カ月かかった翻訳作業について、「楽しかった」と語る戸口さん。本を手にした写真を撮らせていただいた。（1月12日）

リジューの聖テレーズについては、昨年10月15日付のバチカン・ニュースに次のように記されている。「教皇フランシスコは、幼きイエスと尊き面影の聖テレジアがフランスのアランソンに誕生してから150年を記念し、使徒的勧告『セ・ラ・コンフィアンス』を発表。この中で、24歳の若さで帰天した、『宣教の保護者』リジューの聖テレジア（テレーズ）の、神のいつくしみにおける愛と信頼を、教会の本質として示している」。聖テレーズからのメッセージが、教会の本質にあらためて気づく手がかりとなり得ることがうかがえる。

『信頼と愛の道…』は、聖テレーズの教えについてフィリップ神父が解説した内容をおさめたもの。翻訳した戸口さんは、「テレーズは子どものころから聖人になりたいという強い望みを抱き、15歳でリジューのカルメル会修道院に入り、そこで聖性へと至る『信頼と愛の道』を発見しました。テレーズは、わたしたち人間に対する神の深い愛、その限りないいつくしみを信じていました。その神への信頼と愛こそが、わたしたちを聖性へと導いてくれるのだと。だから恐れずに神を信頼し愛し続けるなら、弱く小さいわたしたちでも聖人になれるのです」と語る。

読者の1人は「その時代の人々がいかに〝聖人〟を遠い存在のように捉えていたか、そのような中、修道女のテレーズが聖書からの気づき、周りの人々を通しての気づきから新しい道を見いだし、私たちに示してくれたことが分かりました。日常を丁寧に生き、神に祈ることの意味・大切さを感じました」と話した。

お求めは、戸口書店（電話095-887-0502）直営のネットショップ https://toguchi.base.shop/ まで。

教区家庭委員会主催 講演会 『共に生きる学び』

佐世保地区で実施

昨年12月10日（日）教区家庭委員会主催で講演会「共に生きる学び」を行いました。講師として「長崎いのちを大切にする会」の副代表、増本小夜子さんを招き、7地区すべてで開催する企画の1回目として佐世保地区（相浦教会）で実施。内容は、①「経口中絶薬」署名のお礼および経過報告とこれからの課題 ②神様から授けられた「いのち」…命の尊さ、家庭の大切さ、子育ての喜びを伝えたい！ ③私たちの活動から学んだこと、願いなど。

日々の生活や仕事を通して語られるお話しは分かりやすく、参加者からは「若い人にもこの話を聞く機会をつくってほしい」との声をいただきました。

2月以降の講演会の予定は、2／11（日）平戸地区・平戸ザビエル記念教会、2／12（月）長崎3地区合同・カトリックセンター、2／23（金）下五島地区・福江教会。時間などの詳細は、各小教区でご確認ください。

（教区家庭委員会）

感謝

―香典返し―

長崎大司教区
●匿名様（褥崎・大加勢）

長崎カトリック神学院
●匿名様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

（教区家庭委員会）

新刊良書

★教皇フランシスコ 使徒的勧告 ラウダーテ・デウム―気候危機について

2015年に公布された回勅『ラウダート・シ』を補完する使徒的勧告。原文の発表は2023年10月4日。カトリック中央協議会、税別450円。

マリア
山本ミヨ修道女
（お告げのマリア修道会）

昨年12月17日逝去。96歳。平戸市生まれ。1947年平戸修道院に入会。61年初誓願、72年終生誓願宣立。

入会後は約20年間農耕をしながら教会に奉仕し、誓願後の40年間を平戸、三井楽、木鉢などで保育に携わり、院長、施設長の重責を担った。

元気で明るく、ユーモアの持ち主で、周りの人を笑顔にした。元来健康に恵まれていたが、7年ほど前に病を得て、病院や老人施設を利用していた。常にみ旨を重視し、神をたたえ、晩年は押し花でカードを作り、手に取った人に神のことを伝えた。

葬儀ミサ・告別式は12月19日、平戸ザビエル記念教会で行われた。

グリモニア
濵口昌子修道女
（純心聖母会）

昨年12月22日逝去。90歳。岡山教会で受洗。1957年入会。60年初誓願、69年終生誓願宣立。

初誓願後6年間は長崎の純心女子学園で中学校教諭を務め、その後は主に東京純心女子学園の事務関係を担当した。丁寧な仕事ぶりで35年間学園に奉職した。2002年長崎の八幡町修道院に派遣。院内奉仕とともに教会学校やサクリスチアなど教会と信徒との交わりを大切にした。特に掲示物をきれいな字で書くなど協力する惜しみない姿は、姉妹たちから喜ばれた。穏やかで何事もしっかりやり遂げる几帳面な性格や、ほっこりした親しみやすさは、シスターの宣教に生かされていた。

21年からロザリオの聖母修道院で療養していたが、体調を崩し、入院していた。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)(代)847-7151
携帯 090-7923-9005
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー(株)
代表取締役　ドミニコ　溝口悦雄
〒858-0926　佐世保市大潟町586
TEL(0956)47-4380

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町1385番地1　TEL (0959) 74-5551　FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦1899-1　TEL (0959) 64-3101　FAX (0959) 64-3102

2024年4月から相続登記の義務化スタート
これまでの相続も対象
相続した不要な土地の国庫への帰属手続、遺言書作成など
まずは、お電話を!!
司法書士 行政書士 山下 緑 事務所
ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21　電話 0957-22-6177